

21世紀における国際深海掘削計画と地球科学

Integrated Ocean Drilling Program and Earth Sciences in the 21 Century

平 朝彦 [1], 岡田 尚武 [2], 木川 栄一 [3]

Asahiko Taira [1], Hisatake Okada [2], Eiichi Kikawa [3]

[1] 東大・海洋研, [2] 北大・理・地球惑星, [3] 海洋科技センター・深海研

[1] Ocean Research Institute, Univ. of Tokyo, [2] Earth and Planetary Sci., Hokkaido Univ., [3] Deep Sea Res. Dept., JAMSTEC

ライザー掘削船とジョイデスレゾリューション級の掘削研究船を併用したより大規模な国際深海掘削計画（IODP）の推進は、学術研究、技術開発、人材育成の面で、我が国の地球科学および関連科学技術分野の発展に大きな貢献をすることが期待できる。

地球システムの成り立ちと挙動を理解し、その変動予測を行なうことは地球科学に課せられた使命であり、我が国が提案しているライザー掘削船を用いた深海掘削計画の推進は、そのための重要な方策の1つである。ライザー掘削船の建造に関しては科学技術庁および海洋科学技術センターが中心となり、現在、2004年からの試験航海に向けて基本設計の段階に入っている。

1996年のCONCORD会議によって、ライザー掘削船を用いた深海掘削計画の科学目標について討議され、プレート沈み込み境界での巨大地震発生帯を直接掘削することが第1目標とされた。その間、世界の研究者の中から、2003年以降の計画に関して、ライザー掘削船だけではなく、現在使用しているジョイデスレゾリューション級の掘削研究船も併用したより大規模な国際深海掘削計画を推進すべきであるとの声が高まった。これを統合国際深海掘削計画（IODP）と呼ぶ。

IODP計画の推進を考える場合に、それが我が国の科学技術にどのような貢献をするのか、明確にしなければならない。すなわち計画の目標とすることと計画運営体制に整合性がなければ、目標の達成はおぼつかないからである。IODPの目標は次のようにまとめることができる。

- 1) 学術研究とくに地球科学、環境科学、生物学への貢献
- 2) 先端地球探査技術開発
- 3) 21世紀を担う科学、技術、科学技術行政の人材育成
- 4) 社会的要請への貢献
- 5) 国際協力・国際貢献

IODPは、ライザー掘削船の建造だけでなく、それを使って新しい学問領域を開拓し、我が国の科学技術の推進に貢献することを目標としている。その中核となるものは学術研究、技術開発、人材育成、計画運営の一体化した推進である。これは国際的に通用する新しい科学技術推進システムを作ろうとする試みでもあり、IODPの推進は、我が国の地球科学および関連科学技術分野の発展に今後、大きな貢献をすることが期待できる。